

1月8日(月・祝)まで

「麗しの雅楽器」

銘(めい)と呼ばれる愛称をつけ、色鮮やかな裂(きれ)の袋や精緻(せいち)な蒔絵(まきえ)の箱に包んで、愛玩されてきた雅楽器。楽器を収納するこれらの袋や箱もまた、見所のひとつです。工芸美の粋を凝らした華やかな雅楽器の世界をご堪能ください。

1月11日(木)~2月6日(火)

「彦根藩主井伊家の印章」

彦根藩井伊家の当主が使用していた印章は、700 顆(か)余りの現存が確認されています。本展では、当主の名や号、中国の詩文の語など、印章に刻まれた多様な印文に注目します。多くの作品が初公開です。



ギャラリートーク

1月13日(土) 11:00~11:30、14:00~14:30

※事前申込:不要 場所:展示室1

観覧料が必要

常設展示の名品

常設展示「ほんものとの出会い」では、譜代大名筆頭・井伊家に伝来した名宝を中心に展示を行っています。

1月11日(木)~2月6日(火)まで

「翁狩衣 茶地斜め竹格子鳳凰丸桐菊寿字文様」



天下泰平、五穀豊穰を言祝(ことほ)ぐ演目「翁」専用の装束。斜めに交差した竹の交点に、寿の文字や鳳凰の丸紋、小さな菊花を配したためたい文様の一領です。

展示室(一部)の休室・臨時休館のお知らせ

■展示室5、6 1月9日(火)~2月6日(火)、9日(金)~28日(水)

■臨時休館 2月7日(水)、同8日(木)

詳しくは、当館ホームページでもご確認ください。



文化プラザだより

3月17日(土)14:00 エコーホール

第5回彦根亭落語会

笑福亭松喬 襲名記念会



江戸時代から続く上方落語の名跡、笑福亭松喬が約4年ぶりに復活!師匠の六代目松喬の名を継ぐのは、笑福亭三喬。「笑福亭らしさ」がたつぷりと堪能できる、骨のあるしっかりとした落語をお楽しみください。

出演:三喬改メ七代目笑福亭松喬、笑福亭生喬、笑福亭喬介

[1月20日(土)9:00予約開始]

一般 2,800円、ペア(2枚1組) 5,000円

指定

[1月6日(土)9:00予約開始]

友の会 2,300円

※未就学児は入場いただけません。

※託児サービスがあります(有料/要予約)。

3月21日(水・祝)14:00 メッセホール

ひこね市民大学講座 彦根学部

井伊直政と 時代を駆け抜けた武将たち

2017年NHK大河ドラマ「おんな城主 直虎」に資料提供するなど、戦国時代のスペシャリストとして活躍中の小和田泰経さんを講師に迎え、彦根藩初代井伊直政を中心に戦国の世を駆け抜けた武将に焦点を当て講演します。

彦根城博物館 渡辺恒一・学芸史料課長との対談もあり、歴史ファン以外も楽しめる内容です。



[1月6日(土)9:00予約開始]

自由 一般 500円、友の会 450円

※未就学児は入場いただけません。

※託児サービスがあります(有料/要予約)。

チケット販売について

【各公演 発売初日の予約の取り扱い】

※電話予約・インターネット予約のみの受付となります。
※窓口でのチケット引き取り・販売は翌開館日から承ります。

1月の休館日 1日(月・祝)~3日(水)、9日(火)、15日(月)、22日(月)、29日(月)

◎表記のチケット価格は、全て税込価格です。

◎託児は、未就学児1人1,000円です。公演の10日前までにお申し込みください。

とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

彦根藩主井伊家伝来の印章

— 印文あれこれ —

彦根城博物館が所蔵する井伊家伝来の印章は、実に700顆以上を数えます。これらの印章が展示されることにごく稀なのは、大正12年(1923)の関東大震災で罹災し、痛ましい姿になってしまったからです。当時の井伊家は、東京に本邸を構えていました。この時、箱などの附属品もことごとく焼失してしまい、印章の制作や伝来に関わることがほとんどわからなくなりました。

しかし、印章に彫られている文字(印文)に注目すると、色々なことが見えてきます。一般に印章は、印文によっていくつかに分類することができます。主なものとして、①使用する人の姓名が彫られた姓名印②使用する人の雅号(風雅を楽しむための別名。号とも)が彫られた雅号印③思想や文学などの語句をあらわした遊印があります。井伊家の印章の場合、①は全体としてはあまり多くないのですが、その中で十代当主直幸(1729~1789)の数が群を抜いています。無類



▲写真 井伊直幸の印章

の印章好きだったのではしうか、当時の有名な篆刻家、源伯民や田中良庵が彫ったものも含まれます。②について、印文を見ていくと、直幸の号は此君齋であったことが分かります。此君とは、有名な書家が竹を指して「此の君なしでは一日も暮らせない」と言ったという、中国の故事からとったものと見られます。竹は中国で、蘭・菊・梅とともに四君子と称され、高尚な人格を比喩する植物として好まれてきました。号は私的な名前なので、藩の公文書に記載されることはほとんどなく、印文によって判明することもありません。③の遊印は、印文だけでは誰が作らせたのかは分かりません。井伊家の印章を見ていくと、儒教の重要な書とされる四書五経(論語、大学、中庸、孟子、易経、詩経、書経、礼記、春秋)と、中国の有名な漢詩が多くを占めています。例えば

「事君敬其事」は、論語の一節を、「三林通大道」「斗合自然」は、李白の詩「月下独酌」の一節を彫り表しています。印章文化は、中国からもたらされたもので、そこに彫られた印文も、中国の影響を色濃く受けているのです。井伊家ならではの印文としては、彦根藩主であることを示す文言があります。これには実に多様な表現があり、その語彙力に驚かされます。以下に例を挙げてみましょう。

彦藩之主、彦陽之主、彦根山主、金亀城主、金亀山人、湖東藩主、湖東彦藩之主、湖陽彦藩之主、大湖東彦藩之主、古淡海彦根之主、湖東藩鎮、淡海第一人、琵琶湖之長、大湖長、大湖之人、江渚彦藩之主、近江州伯など、まだまだあります。これらは、彦根藩や彦根城、彦根城のある金亀山、琵琶湖に関連した語を使っていますが、ほかに、徳川家康が幕府を開く際に功があった臣の子孫であること

写真の作品は、テーマ展「彦根藩主井伊家の印章」で、1月11日(木)~2月6日(火)まで展示します。(期間中無休)